

【補足資料】

正会員の議案書分析

編 集 部

この補足資料は、直近の年度(単年度または複数年の運動サイクルで設定されている場合はそのサイクル)の運動方針について、スローガンやビジョン(以下、スローガン等)の設定状況とその内容、および重点的な活動として挙げられている活動について考察を試みたものである。ここでの考察に

は、2020年度に提供していただいた42組織の議案書を用いている。なお、連合や産別組織、連合会、単組など、組織の立ち位置により活動の方向性が具体性の度合いは異なるが、それについては区別せず扱っている。各組織が今後の運動を創る上での一助となれば幸いである。

1. スローガン、ビジョン

スローガン等を設定している組織は、議案書の提供があった42組織のうち32組織であり、多くの組織が設定している。たとえば本編で篠田氏が分析された連合(日本労働組合総連合会)では、「私たちが未来を変える～安心社会に向けて～」が掲げられている。スローガン等に込められたメッセージや主眼別に分類してみると、以下のようなもの(順不同。編集の都合上、割愛した内容や若干表現を変更したものがあ)

今年、労働運動も新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けている中で、3.のように、次のステージ、未来を見据える内容のものも多くみられた。

<1. 職場、働き方に主眼をおいたもの>

- ・強い職場づくり
- ・「新しい働き方」と組合員一人ひとりの「自分らしい生き方」を高める活動を推進しよう!
- ・働きがいを向上させよう、いい会社を目指そう
- ・個人と会社のエンゲージメントの確立
- ・充実した仕事と安心で豊かな暮らしをめざす

<2. 運動のあり方に主眼をおいたもの>

- ・よい暮らし よい会社 よい社会を共に創るとい
う共通の目的に向かって、自分事として考え、主体
者として行動し、持続可能な労働運動を創る
- ・運動の深化と創生
- ・強固な労働基盤・強固な組織の確立へ!
- ・活躍・成長・活性化—3つの柱で運動を進めよう!
- ・創造・参加・実践
- ・本質の追究～ 個の考え・知恵を結集させ、議論
を尽くし、チャレンジする ～
- ・Rebuild —組合活動の再構築—

<3. 次のステージ、未来を見据える内容のもの>

- ・活気溢れる組織に向けて新たなステージへ～変化
に柔軟に対応する力と力強く前進する力を～
- ・一人ひとりが踏み出そう～みんなの一步を大きな
力に
- ・社会の変化に向き合い新たな価値を共に創造しよう
- ・みんなで踏み出す新たな一步～本音でつながろう
- ・時代を見据え、未来を創造～一人ひとりの行動
で、真の豊かさを実現～

- ・行くぞ!変化のその先へ!
- ・ハッピーライフの実現に向け、全員が TAKE ONE STEP!

- ・Deep breath. Think once.
- ・進化のための原点帰
- ・すべてのことは、願うことから始まる

2. 重点的な活動

次に、重点的な活動について確認したい。各組織の議案書では、幅広い活動が記載されているが、ここでは特に、今期重点的に取り組むとしている内容に焦点を当てる。領域を「1.組織」「2.職場(仕事、会社含む)」「3.社会」「4.個人」に分け、それぞれの内容を確認してみたい。

1. 組織

「組織」に関連する内容を重点的な活動に挙げる組織は31組織であった。「活力ある組織」「魅力的な組織」など、組織のありたい姿を示しているものが多い。また、「組織(力)の強化」を挙げる組織が7組織と目立った。このほか、組織拡大を掲げるところも複数みられ、パート社員の組織化などさらに具体的な活動に言及する組織もあった。また、「困難な時こそ労働組合が存在感を示し、組合員に信頼される運動を築く」など、組合の存在感を発揮するという内容も複数みられた。

2. 職場(仕事、会社含む)

「職場(仕事、会社含む)」に関連する内容を重点的な活動に挙げていた組織は、33組織であった。参考に、具体的な内容別に組織数を数えてみたところ、下表のとおりとなった(注:1組織で、職場に関する複数の内容を記載しているところがある)。

「職場のあり方」では、「誇りをもてる職場(仕事)」「安心できる職場(仕事)」などの内容がみら

内容	組織数
企業の発展、経営対策	11
働きがい、やりがい	10
職場のあり方(誇り、安心)	10
労働条件	7
働き方	6
雇用の安定	4

れた。また、「働き方」では、「新しい働き方」や「ニューノーマルな働き方」などの実現を目指すものを中心であった。労働組合が積極的にかかわりながら、新しい働き方を創っていかうとする方向性がみて取れた。

3. 社会

重点的な活動として、「社会」に関連する内容を挙げる組織は22組織であった。目指す社会像が掲げられ、「豊かな社会」「働くものが主役の社会づくり」「安全安心に暮らせる社会」などの内容がみられた。中でも、安全や安心を謳う組織が複数あった。また、自分たちの目指す社会の実現のための政治活動への参画など、政治活動や政策制度を重点的な活動として挙げる組織も4組織みられた。

4. 個人

「個人」に関連する内容を掲げる組織は15組織であり、おおむね、組合員の豊かな生活や豊かな人生につながる取り組みを行うといった趣旨の内容であった。具体的には、「組合員一人ひとりの自分らしい生き方をめざす」「人生100年を見据えたライフプラン設計に繋がる取り組み」などがみられた。

組織によって、3.社会や4.個人の領域は重点的な活動としては挙げていない組織もあれば、1.~4.すべての領域を重点的な活動として網羅して設定している組織もみられる。ある組織の議案書では、「労働組合がどの領域まで関わるべきか」ということそのものも議論されていた。労働組合の活動領域やその内容については、上記はあくまで参考ではあるが、今後も留意してその経過を追っていききたい。